

ビーバー・カブまつり 2019 指導者のためのガイドライン（指針）

1. 趣旨

このガイドラインは、ビーバー・カブまつりを開催するにあたり、県連盟行事におけるスカウト教育の位置づけについて、プログラム委員会とコミッショナーグループの考え方を示したものです。

2. スカウト教育の重要性

ビーバースカウトとカブスカウトの行事は、遊びや仲間たちとの活動を通して、スカウト達が楽しく参加できることが重要であり、行事ではこれが一つの目標となります。

しかし、ボーイスカウトでは、行事が単なる「楽しいイベント」で終わるのではなく、スカウト教育法に基づき、行事を通してスカウトが成長できることが、最も重要となります。

つまり、県連盟の行事は、スカウトが成長・進歩するための、方法・手段であるべきということです。

3. 目的

ビーバー・カブまつり 2019 の目的は次のとおりです。

「野外に出ると、様々なことに興味がわき、自分にできることやチャレンジしたいことも増えていきます。体を動かす楽しみを感じ、より積極的になることを目指します。」

4. 活動目標

ボーイスカウト日本連盟の教育規程第7章では、各部門の活動目標が定められています。

プログラム委員会とコミッショナーグループでは、下記に掲げる2つの部門の活動目標のうち、今回の行事をとおして太字・下線で示した目標が達成できると考えています。

ビーバースカウト活動の目標(7-13)	カブスカウト活動の目標(7-17)
<p>ビーバースカウト活動の目標は、次のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 神（仏）と身の回りの人たちについて認識させる。 ○ <u>自然に親しませる。</u> ○ 表現力を伸ばす。 ○ <u>所属する喜びを味わわせる。</u> ○ <u>考える力を育てる。</u> ○ <u>健康と安全について知らせる。</u> ○ <u>活発に活動させる。</u> ○ <u>体験をとおして学ばせる。</u> ○ <u>愛と感謝の心を育てる。</u> ○ 国際組織の一員であることを知る。 	<p>カブスカウト活動の目標は、次のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 神（仏）をうやまい、自分への責任を認識させる。 ○ <u>自然に親しみ愛護する心を育てる。</u> ○ <u>小グループの中で、相互に影響しあう機会を提供する。</u> ○ <u>所属意識を伸ばし、目的を達成したときの充実感を感じさせる。</u> ○ <u>自ら考え判断し、決断する力を養う。</u> ○ <u>健康と安全について認識させる。</u> ○ 好奇心と冒険心を満足させる。 ○ <u>体の動きを高め、創造力を伸ばす。</u> ○ <u>体験をとおして学ばせる。</u> ○ <u>フェアプレーの精神と正義感を養う。</u> ○ <u>愛と感謝の心を育てる。</u> ○ 国際組織の一員であることを学ぶ

5. ビーバースカウトの進歩

今回の行事では、次に掲げる「木の葉章」課目のうち、赤い線で囲まれた細目が履修できると考えています。木の葉章の授与については、各隊隊長のご判断となりますので、参考までにお示します。

各隊の指導者は、これを参考にビーバースカウトに木の葉章を授与していただき、スカウトの進歩につなげて下さい。

生活	健康	自然	社会	表現
1 神様や仏様にお参りをする。	1 早く寝て早く起きる。	1 花や野菜などを育てる。	1 近くの工場や博物館などを見学する。	1 歌を歌う。
2 あいさつをする。	2 食物の好き嫌いをなくすようにする。	2 自然の生き物や天気などを気をつけて見る。	2 近所のお祭などに参加する。	2 好きな楽器を演奏する。
3 隊・組・うちで仕事を進んでする。	3 運動をする。(鉄棒、縄とび、かけっこ、水泳、力だめしなど)	3 自然の材料で遊び道具を作って遊ぶ。	3 みんなのために働く人たちのことがわかる。	3 簡単な劇をする。
4 幼い者や弱い者には親切にする。	4 ルールを守ってゲームをする。	4 季節の移り変わりや特徴を気をつけて見る。	4 みんなのためになることをする。	4 絵をかいたり絵を見たりする。
5 欲しい物があっても少しの間我慢できる。	5 昔からの遊びを教わってする。	5 ピクニックや探検に出かける。	5 ボーイスカウト仲間の集まりに参加する。	5 簡単なダンスや踊りをする。
6 はいといいえがはっきり言える。	6 近所の体育行事などに参加する。	6 月や星などの様子を気をつけて見る。	6 交通のきまりを守る。	6 みんなの前でお話をする。
7 家のきまりを守る。	7 手、足、体などの清潔に気をつける。	7 簡単な料理をする。	7 よその国の話を聞く。	7 材料や道具を工夫して工作をする。
8 身の回りをいつもきちんと片付けておく。				8 本を読んだり感想を話したりする。
				9 手紙や日記を書く。
				

6. カブスカウトの進歩

今回の行事では、次に掲げるカブスカウトの2つのチャレンジ章の細目のうち、一部の細目が履修できると考えています(太字・下線で示した細目)。

各隊の指導者は、これを参考にカブスカウトがチャレンジ章を取得できるよう、活動・集会の組み立てを工夫、計画していただき、カブスカウトの進歩・成長を支援して下さい。

ここで記述していることは、「ビーバー・カブまつり 2019」に参加することで、自動的にチャレンジ章が取得できるという主旨ではありません。

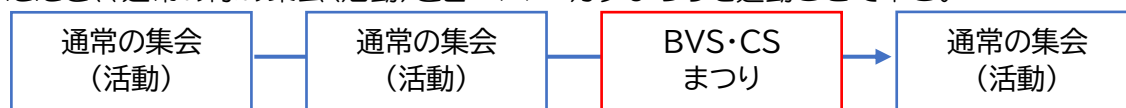
あくまでも、細目の一部が履修でき、スカウトの進歩につなげることができるという考え方を示しているものです。各隊長におかれましては、全ての細目の履修を確認し、チャレンジ章を授与して下さい。

(3)友情	(3)チームスポーツ選手
<p><u>ア カブラリー、地区スカウト行事などで、他の団のカブスカウトと友だちになる。</u></p> <p>イ ペンフレンドをつくり、2回以上文通をする。</p> <p>ウ 友だちに呼びかけて、スカウト仲間をふやす努力をする。</p> <p><u>エ 隊や組での自分の役割を果たし、仲間にも認めもらう。</u></p>	<p><u>ア 隊や組の仲間でスポーツのチームを作り、その一員となる。</u></p> <p><u>イ 次の競技の中から1つを選び、競技方法を知る。</u></p> <p>サッカー ラグビー 野球 ソフトボール キックベースボール ハンドベースボール バレーボール バasketボール ポートボールなど</p> <p><u>ウ 自分の好きなスポーツを選び、3回以上試合に出る。</u></p> <p><u>エ 細目ウで選んだスポーツに必要な用具と服装の手入れができる。</u></p>
	

7. 隊の集会(活動)との連動

ビーバー・カブまつりをその日だけの一過性の行事にしてしまうと、スカウト教育の面においては、教育効果が薄くなると考えています。

各隊におかれましては、プログラム委員会が示した実施要項を基に、各隊のプログラムを組み立てていただき、通常の隊の集会(活動)とビーバー・カブまつりを連動させて下さい。



※上記の集会の流れ、集会の回数などは、参考としてお示ししています。プログラムの組み立ては、各隊の事情に合わせて、計画することになります。

- カブスカウトなら、「事前にルールを調べる」、または「ディスクゴルフの練習をする」、そして行事の後に「体験したことを発表する」、「ディスクを使った別のスポーツを体験する」などが考えられます。
- ビーバースカウトなら、「当日使用するディスクを実際に投げてみる」、「柔らかいディスクを使って遊んでみる」などが考えられます。

8. 安全管理

今回の行事では、「硬いディスク」を使用するため、安全面からも事前にディスクのことを知っていただき、取り扱い方を学習することで、当日のケガ、事故を低減させることにつながると考えます。また、今回の会場が公共の場所(公園)を使用するため、安全面においても、ルールやきまりを守ることの大切さを、スカウトに事前にお話し下さい。(「7. 隊の集会(活動)との連動」と関連)

上記のことに関しては、再度各部門の教育目標、及びビーバースカウト「木の葉章」の細目と照らし合わせて下さい。

(1) 実施要項(概要版)

行事の安全管理については、実施要項(概要版)で詳しく記述していますので、お目通し下さい。

(2) 熱中症対策

熱中症の対策も必要な時期だと考えます。各隊でテントやフライシートをご準備下さい。また、十分に水分補給ができるよう、各隊(各自)でキーパーまた水筒をご準備下さい。(参考資料を添付します)

(3) 保険の適用

加盟員以外の者(体験者やスカウトのきょうだい、保護者等)が参加する場合には、各隊で保険の適用をご確認下さい。

9. スカウトソング

スカウトソングを歌えるようにしたいと思います。次の曲を選定しますので、各隊の活動でもみんなで歌う機会を作ってください。

(1) ビーバースカウト

- ① みんなで大きなわをつくろう

(2) カブスカウト

- ① いつも元気
- ② ジャングルブックの歌

I

熱中症とは何か

1. 熱中症とは何か
 2. 熱中症はどのようにして起こるのか
 3. 熱中症はどれくらい起こっているのか
 4. 熱中症と気象条件
- コラム ヒートアイランド現象
- コラム 地球温暖化とその影響
5. 暑熱環境と暑さ指数
 6. 暑さ指数 (WBGT) : 熱中症予防のための指標

2. 熱中症はどのようにして起こるのか

2. 熱中症はどのようにして起こるのか

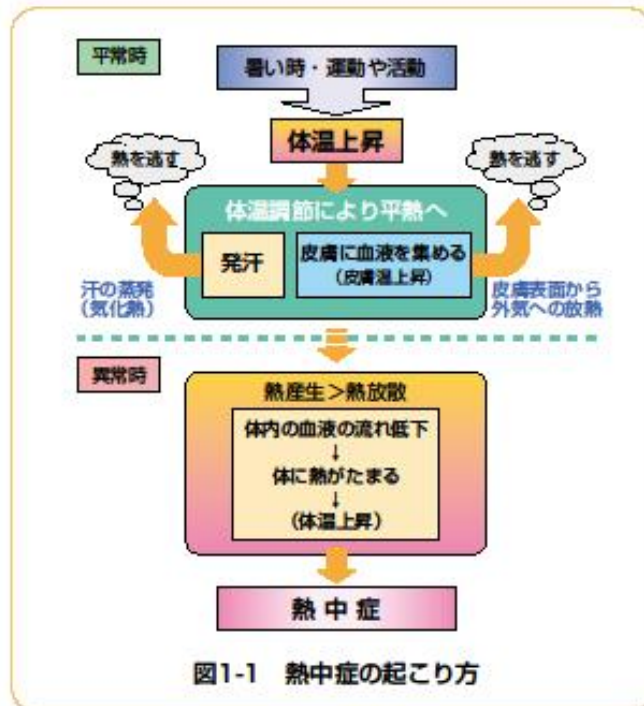


図1-1 熱中症の起こり方

体内に溜まった熱を体外に逃す方法(熱放散)には、皮膚の表面から直接熱を外気に逃がす放射や液体や固体に移す伝導、風によってその効率を上げる対流等があります。

しかし、外気温が高くなると熱を逃しにくくなります。汗は蒸発する時に体から熱を奪います。高温時は熱放散が小さくなり、主に汗の蒸発による気化熱が体温を下げる働きをしています。汗をかくと水分や塩分が体外に出てしまうために、体内の水分塩分が不足し、血液の流れが悪くなるので、適切な水分・塩分の補給が重要になってきます。

どのような場所でなりやすいか(環境)

高温、多湿、風が弱い、輻射源(熱を発生するもの)がある等の環境では、体から外気への熱放散が減少し、汗の蒸発も不十分となり、熱中症が発生しやすくなります。

<具体例>

工事現場、運動場、体育館、一般の家庭の風呂場、気密性の高いビルやマンションの最上階等

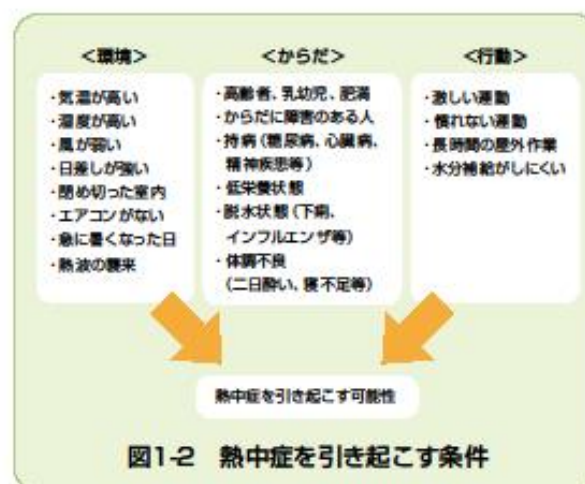


図1-2 熱中症を引き起こす条件

II

熱中症になったときには

1. どんな症状があるのか
2. どのようなときに熱中症を疑うか
コラム 「熱けいれん」と「熱失神」
3. 熱中症を疑ったときには何をすべきか
4. 医療機関に搬送するとき
コラム “どこを冷やすか？”

3. 熱中症を疑ったときには何をすべきか

3. 熱中症を疑ったときには何をすべきか

熱中症を疑った時には、放置すれば死に直結する緊急事態であることをまず認識しなければなりません。重症の場合は救急車を呼ぶことはもとより、現場ですぐに体を冷やし始める必要があります。

現場での応急措置

① 涼しい環境への避難

風通しのよい日陰や、できればクーラーが効いている室内等に避難させましょう。傷病者が女性の場合には、②の処置の内容を考慮して男女で救護することをお勧めします。

② 脱衣と冷却

- ・衣服を脱がせて、体から熱の放散を助けます。きついベルトやネクタイ、下着はゆるめて風通しを良くします。
- ・露出させた皮膚に濡らしたタオルやハンカチをあて、うちわや扇風機等で扇ぐことにより体を冷やします。服や下着の上から少しずつ冷やした水をかける方法もあります。
- ・自動販売機やコンビニで、冷やした水のペットボトル、ビニール袋入りのかち割氷、氷のう等を手に入れ、それを前頸部(首の付け根)の両脇、腋窩部(脇の下)、鼠径部(大腿の付け根の前面、股関節部)に当てて、皮膚直下を流れている血液を冷やすことも有効です。
- ・体温の冷却はできるだけ早く行う必要があります。重症者を救命できるかどうかは、いかに早く体温を下げるができるかにかかっています。
- ・救急車を要請する場合も、その到着前から冷却を開始することが必要です。